

水通信



2021.4.23 第179号

「水通信」は、水資源機構（主に中部管内）における取組に関する情報を、中部管内の関係者（県、市町村、土地改良区その他関係機関）の皆様方に、直接配信させていただいております。

※目次の事業所名等をクリックすると、その事業所等の記事に移動します。

各事業所名をクリックすると目次に戻ります

目 次

☆ [【巻頭言】](#)

- 中部支社長 坪井 浩二

☆ [【中部管内水源情報】](#)

☆ [インタビュー『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』](#)

- 株式会社栗山組 天野啓治

☆ 《新着情報》

[中部支社](#)

- 中部支社幹部人事異動についてお知らせします
- 交通安全講習会を開催しました

[豊川用水](#)

- ドローン操作訓練を実施しました

木曾川水系連絡導水路

- 沿線の紹介～木曾川渡し場遊歩道

愛知用水

- 中部地方水供給リスク管理検討会委員が視察されました

木曾川用水

- 危機管理対応訓練を実施しました

岩屋ダム

- 第22回岩屋ダム水源地域ビジョン推進協議会が開催されました

阿木川ダム

- 新任あいさつ 阿木川ダム管理所長 武田 浩一
- ハナモモの花がきれいに咲きました

徳山ダム

- 洪水期に備えて洪水を貯めるための容量を確保します

長良川河口堰

- 新任あいさつ 長良川河口堰管理所長 新井 誠輔
- 今年も稚アユの遡上状況を公表します！！

味噌川ダム

- 新任あいさつ 味噌川ダム管理所長 後藤 孝
- 味噌川ダム防災資料館（ふれあい館）開館のお知らせ

三重用水

- 新任あいさつ 三重用水管理所長 川地 悟
- 菰野調整池周回散策路の舗装をリニューアルしました

☆ **【編集後記】**

- 担当課 中部支社 総務部利水者サービス課

巻頭言

【中部支社 支社長 坪井 浩二】

この度、3月31日付けで水資源機構中部支社長を拝命いたしました坪井です。

当中部支社管内では、昭和63年度から平成2年度には長良川河口堰建設所、平成17年度から平成18年度には中部支社での勤務経験があります。また直近2カ年間は本社水路事業部に在籍していましたが、まだまだ管内事情に不案内なところもございます。各現場の実態を関係者の皆様方にご教示頂きながら、職務を遂行したいと考えています。引き続きご指導、ご鞭撻の程よろしく申し上げます。



さて、水資源機構の経営理念である「安全で良質な水を安定して安くお届けする。」を実現するためには、適切な施設管理と今後ともこれらの機能を維持向上すべく計画的な改築等の建設事業を行う必要があります。関係機関や利水者の皆様との更なる連携と信頼関係の構築が必要不可欠と考えます。

昨今、世界的な気候変動による異常気象が各地で報じられていますが、政府は水害の激甚化等を踏まえ、「既存ダムの洪水調節機能強化に向けた検討会」を設置し、令和元年12月に「既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた基本方針」を定め、事前放流の実施方針等を内容とする治水協定を締結することとしました。

中部支社管内では、皆様のご理解のもと、令和2年度に一級水系の木曾川、豊川、鈴鹿川の各水系10ダムと二級水系の員弁川等の3ダムの合計13ダムで治水協定を締結し実施要領を制定しました。

令和2年7月には、各ダムで洪水流量に達する出水が多発し洪水調節を行いました。宇連ダム、牧尾ダムや岩屋ダム等では延べ11回の事前放流を実施し、洪水被害の軽減に大きく寄与することが出来、下流の自治体の皆様から感謝の言葉を頂きました。

今後とも様々な事案に対して、関係機関や利水者の皆様方とリスク回避に向けての議論を実施したいと考えています。

本地域の発展に向けて微力ながら努力していきますので、どうかよろしく願いいたします。

中部管内水源情報

【中部管内水源情報】

中部管内の各ダムにおける4月22日現在の降雨及び利水貯水率については、下表のとおりとなっています。

木曾川水系の4ダム（牧尾・岩屋・阿木川・味噌川ダム）の4月降雨量は平年を下回る状況（平年比66%～74%）となっており、4ダム合計の貯水率は78%（平年比99%）と、平年を下回る貯水状況となっています。

豊川水系の宇連ダム及び大島ダムの4月降雨量は、平年を下回る状況（平年比51%～64%）となっていますが、豊川用水全体（宇連・大島ダム、各調整池）の貯水率は94%（平年比107%）と平年を上回る貯水状況となっています。

中部管内各ダムにおける4月の降雨及び利水貯水率（4月22日現在） 単位：（%）

	牧尾ダム	阿木川ダム	味噌川ダム	岩屋ダム	宇連ダム	大島ダム	中里ダム	徳山ダム
降雨の平年比	66	74	74	66	51	64	98	69
利水貯水率	51.1	94.5	100	100	91.5	99.5	98.6	100
（平年比）	（82.3）	（108.9）	（101.6）	（112.9）	（106.5）	（110.5）	（106.7）	（100）

- 中部支社管内の各ダム貯水状況等は中部支社HP内の「水源情報」でご覧いただけます。
中部支社HP <https://www.water.go.jp/chubu/chubu/index.html>

「水源情報コーナー」

- ◆リアルタイム情報 <https://www.water.go.jp/mizu/chubu/realtime/index.html>
- ◆中部管内の水源状況（平日更新） <https://www.water.go.jp/mizu/chubu/report/>
- ◆ダム貯水状況グラフ、節水情報など
<https://www.water.go.jp/chubu/chubu/sessuijyouhou03-1.html>

インタビュー『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』

中部支社メールマガジン水通信では、令和3年より新たなコミュニケーションツールとして、水資源開発施設等の建設・管理に携わる「人」に焦点を当て、それぞれのスペシャリストにインタビューを行う新コーナー『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』を掲載しています。

今回は、地域のインフラを支える工事の受注業者さんからお話を伺うべく、昨年度末をもって事業完了となりました木曾川右岸緊急改築事業の工事を監理技術者として担当された、株式会社栗山組あまのけいじの天野啓治さんにお話を伺いました。



<Profile>

天野 啓治 Keiji Amano

株式会社栗山組 土木部

昭和49年 測量会社 入社

昭和54年 土木会社 入社

昭和62年 1級土木施工管理技士 取得

平成19年 株式会社栗山組入社、現在に至る

天野さんのプロフィールを拝見させていただくと、42年もの間、土木業に携わられているベテラン中のベテランですが、この業界を選んだきっかけについて教えてください。

—— 学校卒業当初は、手に職をつけた方がよいと思い、地元の測量会社に入社し測量業務に従事していました。

入社した測量会社では、同年代の仲間3～4名と早く正確にきれいな図面を作成するのを競い合っていました。完成した図面を設計課へ渡した時に設計課の先輩から「天野の作成した図面はきれいだな」と言われるのが嬉しかったのを覚えています。

土木会社に入社したのは、叔父が土木会社におり、監理業務ができる若い人材がほしいからと誘われたのがきっかけです。

その頃は測量会社での測量業務の経験も積んで自信もあり、今度は、図面に描かれている現場を完成させてみたいと思い土木会社に入社しました。

測量会社から土木会社へ転身された訳ですが、実際に土木業界に入って見て、どのようなところに魅力を感じましたか。

—— 測量も楽しかったですが、工事が完成した時は、強烈に土木業が面白く感じました。

例えば、道路を造る時は直線もあればカーブもある訳ですが、それぞれに色々な要素があるので、完成した時にいかに線形をきれいに仕上げることができたかという所に喜びを感じました。工事完成時の完成検査を受けた後、検査員の方から「ご苦労様でした。良

い仕事をしてくれたね」と一言ねぎらいの言葉を掛けていただいた時は、この仕事をやって良かったと感じました。

また、ささやかではありますが、自分の足跡が残せることができることも、ひとつの魅力であり、やりがいがあると思っています。

「地図に残る仕事」に憧れて土木業界に入職される方は多いですね。天野さんの仕事に対するこだわりや、職人魂を感じるコメントに胸が熱くなりました。

現在はこれまでの経験を活かし監理技術者として工事の総合調整を行われていますが、大切にしていることはありますか。

—— 工事を完成させるには、自社だけではなく協力会社が必要です。平成 21 年度から水資源機構の緊急改築事業の工事を受注しており、幸いにも同じ協力会社の溶接工さんにずっとお世話になっており、あうんの呼吸で進めて頂けるので有り難く思っています。良い仕事を行うには、人と人との信頼関係が大切だと感じております。

そう言えば、あるとき協力会社から言われたのですが、「計画通り工事が進まないことが多い中で、栗山組さんが行う工事の段取りにはブレがないので次の工事の段取りが立てやすい」と言われたこともあり、それ以来、借地、掘削、材料の手配など計画通りに施工できるよう心掛けています。

また、工事をする際に地元の方々から大切な田畑をお借りすることがあるわけですが、私自身も田作を行っているため、土地を返還するときは、田んぼに石が残っていないかトラクターで確認し、借りた時よりもきれいに返すよう心掛けています。

借地の返還について、使用者の立場に立って作業されているというエピソード、我々も見習わなければなりません。

栗山組さんは機構の工事を過去にも受注されていると伺っておりますが、これまでの工事で苦労したことがあれば教えてください。—— 苦労したというか大変だったのは、「右岸緊改八百津支線東分線他工区改築工事」ですね。工事用道路を盛り土して造成したのですが、実はこの付近が八百津中学校の通学路となっていたため、工事期間中は、生徒さんたちには迂回道路を通学してもらっていたのです。

この迂回道路は、生徒からみたら、学校まで直線で通学できたのが、細く暗い坂道を通って行かなければならず腹立たしいと思ったのか、毎日、迂回道路に設置していたカラーコーンを蹴っ飛ばして通学していくため、困らせられましたね（笑）

でも、悪戯していた3人組の中学生は分かっていたので、作業員や警備員には、通学時・帰宅時に見掛けたら「おはよう」、「おかえり」と声掛けするようにしたんですね。一度も挨拶は返してもらわなかったけど、しばらくしたら、だんだんと悪戯しなくなりましたね。その時に声掛けするのは大事だなあと思いました。この迂回道路は通学者以外に一般車両も通行していたので、ある意味色々大変でしたが、今では楽しい思い出です。

機構の発注する工事は大変な仕事が多いと言われている中で、楽しい思い出を挙げていただいたのは非常に有り難いです。

現在のコロナ禍においても引き続き工事を進めていただいておりますが、どのような点に留意して工事を進められていますか。

—— 基本的なことですが、作業員には、マスクの着用、飲食時には時間差を設けることでソーシャルディスタンスに努めていました。また、現場には体温計を設置し、おでこ、首で計測してもらい、最後には、脇で体温も計ってもらっていました。

特に協力会社の作業員の方は高齢者が多いので、感染症対策に関しては、そういう方々の方が意識は高かったです。

天野さんのようなベテラン社員の立場において、若い人たちや新入社員への教育についてはどのようにされていますか。

—— 私は、会社のため、本人のためを思って厳しくしていますが、たまに若い人たちに褒めていても、褒められていることを全然理解していない人もいますので中々大変でした。

ある時、若い社員に荷物を取ってくるのをお願いした時のことですが、ダラダラ歩いて取りに行くので、その社員に「サッカーやっていたのにその緩慢な動きは何だ！」と注意したことがありました。その社員は悔しくてその場で涙を流していたのですが、次の日、ちゃんと来てくれ、以後は見違えるように動きが良くなったので、「その動きを待ってい

たんだよ」と言うと、その社員は、嬉しそうに「ありがとうございます。」とっていました。

後輩の教育については、65才の私などではなく、年齢の比較的近い30代が言わないといけないと感じております。

現在は受注者として機構との関わりがありますが、今後、機構に期待することがありましたら教えてください。

—— 人が生きていくことに「水」は必要不可欠な物です。飲み水であったり、水田や畑を潤す農業用水又は工業用水として生産に寄与していますが、この先においては、突発的なゲリラ豪雨、自然エネルギーによる発電としての多目的ダムの整備・充実に期待します。

毎年起こる河川の氾濫による生活への甚大な影響により、ダムは欠かせない物になってきていると思います。また、多目的ダム等による水力発電の必要性を強く感じております。未来のためにも、多目的ダムのさらなる活用の取り組みを進めていただきたいと思います。

天野さんは、平成21年度から木曾川用水総合管理所の発注する管水路工事の監理技術者としてこれまで従事されてきましたが、御年65歳。本当はもう引退したいのですが、あと2年間社長と一緒に頑張ろうと言われ、なお現役続行中とのこと。

これまで長きにわたり培ってきた土木に関する経験と熱い職人魂をもって、会社のため、地域のためにもうひと頑張りを期待しております。

水資源機構中部支社では、水の安定供給を支える「人」に焦点を当てたインタビューコーナーを掲載しています。インタビューに応じていただける方を募集しておりますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

《新着情報》

中部支社

○ 中部支社幹部人事異動についてお知らせします

今春の人事異動につきまして、以下のとおりお知らせ致します。関係者の皆様方には引き続きご支援の程お願い申し上げます。

	新任者	前任者
支社長	つぼい こうじ 坪井 浩二 (本社水路事業部より)	たなか ひさつぐ 田中 久二 (農林水産省へ復帰・定年退職)
副支社長	きのした まさき 木下 昌樹 (本社危機管理監より)	むらお こうた 村尾 浩太 (定年退職)
総務部長	すぎた やすし 杉田 康司 (思川開発建設所より)	さがら ひでき 相良 秀樹 (総合技術センターへ)
事業部長	かわい ひさし 河合 久志 (香川用水管理所より)	むらかみ よしあき 村上 喜昭 (本社水路事業部へ)
事業部次長 (管理担当)	はなだ ひろゆき 花田 弘幸 (本社ダム事業部より)	みやがわ しょうぞう 宮川 省三 (荒川ダム総合管理所へ)

○ 交通安全講習会を開催しました

3月11日(木)に、中部支社交通安全講習会を開催しました。

東日本大震災からちょうど10年となるこの日、愛知県中警察署交通課より職員をお招きし、愛知県内における交通事故の状況や、最近の交通違反の傾向などについてお話いただきました。

当日は、在宅勤務者や打合せ等で出席できない職員を除く26名が参加し、運転に関するアドバイスや注意事項に耳を傾けていました。

中部支社のある名古屋市中区における特徴としては、駐車場が少ないことから自転車で移動する方が多く、自転車による事故や違反が多発しているとのことでした。中部支社においても外部との打合せなどで自転車を使用する機会もあり、また自主運転を行う場合において、自転車特有の交通法規などに注意しながら走行することが求められるという認識を新たにしました。

読者の皆様におかれましても、新年度となり気持ちも新たに安全運転を行い、業務の有無にかかわらず事故のないよう心がけましょう。



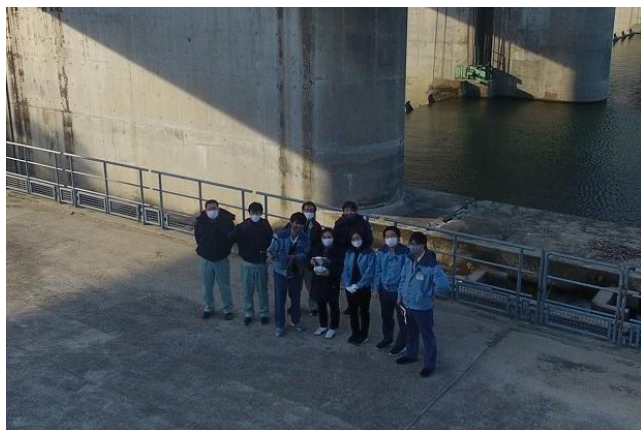
■ 中警察署職員の方による講習会の様子

豊川用水総合事業部

○ ドローン操作訓練を実施しました

2月24日（木）に防災訓練として、ドローン操作訓練を新城支所にて実施しました。当日は、風も穏やかなドローン日よりのなか、水資源機構と豊川総合用水土地改良区から各5名ずつ参加しました。

前半はドローンに関する規則などを学び、後半は牟呂松原頭首工の近くでドローンの操作訓練を行いました。実技ではホバリングや8の字飛行などの基本的な操作の他にも、アクティブトラック（被写体を自動追従）やポイント・オブ・トラック（被写体の周りを回転旋回）など、応用的な技術も学びました。今回の防災訓練で学んだことが、今後の業務に役立つものと思います。



■ 訓練に参加した改良区職員と機構職員



■ ドローンで撮影した牟呂松原頭首工

木曾川水系連絡導水路建設所

○ 沿線の紹介～木曾川渡し場遊歩道

岐阜県可児市今渡にある木曾川渡し場遊歩道は、江戸時代中山道が初めて木曾川を渡る場所として栄えた渡し場のあった場所です。役目を終えた渡し場は、次第に荒廃し、荒れ放題の竹藪となりましたが、平成19年より木曾川左岸遊歩道友の会の手によって整備され、遊歩道ができ約600mの竹林の道は「かぐや姫の散歩道」と呼ばれています。

また、遊歩道を上流に向かって歩くと今渡の渡し場跡（石畳）があります。「木曾のかけはし 太田の渡し 碓氷峠がなくばよい」と中山道の三大難所と歌われた木曾川の渡し場跡です。江戸時代には、木曾川が出水するごとに川止めとなったので、今渡地区は旅人のための宿屋、茶屋などが立ち並び、湊町として繁栄しましたが、昭和2年に太田橋が完成し、渡し場は廃止されました。現地の案内板には明治14年当時の渡し賃が表示されており、人の渡船料は1銭2厘となっており、当時の1銭を現在の約263円（※当時と現在の大卒初任給で比較し試算）とすると、約320円になります。



■かぐや姫の散歩道



■今渡の渡し場跡（石畳）



ことわざブレイク

【石の上にも三年】

・辛抱すればいつか必ず成功することのたとえ。冷たい石の上でも、三年座り続ければ暖まるという意から。いつか必ず成功することのたとえ。

愛知用水総合管理所

○ 中部地方水供給リスク管理検討会委員が視察されました

3月3日（水）に、中部地方におけるリスク管理型の水の安定供給のあり方についてとりまとめを行うため、中部地方水供給リスク管理検討会（有識者委員3名・検討会事務局：中部地方整備局河川部長ほか4名）のメンバーが愛知用水の現地視察に来られました。

この検討会では、中部地方整備局管内の各地域における水供給に、影響が大きいリスク要因となる外力やシナリオを検討し、水供給の停止等がさまざまな地域や利用者に与える影響と被害の程度を明らかにすることを目的に開催されました。

総管までの車中において、管理所長より愛知用水の概要について説明し、総管到着後には日々の配水及び水源の運用、操作室・愛知池について説明を行いました。

愛知用水がこの地域に欠かせないライフラインであることにご理解をいただくとともに、併せて利水者のみなさまに安定して水供給を行うために、24時間365日欠かさず運用している状況について知っていただく大変有意義な機会となりました。



■ 操作室での説明状況

木曾川用水総合管理所

○ 危機管理対応訓練を実施しました

2月17日（水）日本防災通信協会職員を講師として、参加職員（7名）に対して非常通報装置の仕組みと連絡対応についてご教授いただき、非常通報装置を用いた通報訓練を実施しました。当日は、非常通報装置を使用したことのない職員を対象として、非常通報装置のレプリカを使用した通報訓練を実施しました。

【参考：非常通報装置とは】

突発的に施設や人命に対する重大な危機が発生、あるいは発生する恐れがある場合、非常通報ボタンを押すことで自動的に110番に緊急通報するもの。



■通報訓練 講義の状況



■通報訓練 実技の状況

岩屋ダム管理所

○ 第22回岩屋ダム水源地域ビジョン推進協議会が開催されました

2月26日(金)、金山町下原公民館において、水源地域の自治体及び関係団体が出席し、岩屋ダム水源地域ビジョン推進協議会が開催されました。この協議会は、岩屋ダム水源地域の活性化の取り組みを推進することを目的に、毎年開催されているものです。

協議会は、報告事項、議事の順に進められ、令和2年度実施事業報告として、ダム湖の湖面を利用した「東仙峡金山湖カヤックツアー」等の実績報告があり、令和3年度事業(案)では、点検放流イベントの予定等について審議されました。

また、使用を休止している金山湖キャンプ場(周辺環境整備事業で整備)について、地元の下呂市が民間の活力を活かした事業を企画して公募を行い、選定された事業者が令和3年度から使用を開始する計画の提案があり、承認されました。

このほか、地域おこし協力隊から、ボルダリングによる地域活性化の取り組みについて報告があり、ダムの上流域には世界クラスの岩をはじめ、ボルダリングに適した大きな岩が豊富にあるということで、整備が進められています。

ダム周辺の金山・馬瀬エリアは、アウトドアフィールドとして、魅力あふれる地域です。馬瀬川の鮎など釣りを含め、今後の発展が期待されます。



■推進協議会の様子

阿木川ダム管理所

○ 新任あいさつ 阿木川ダム管理所長 武田 浩一

4月1日（木）に阿木川ダム管理所長に着任した武田です。よろしくお願いします。

阿木川ダムは、私にとっては、水資源開発公団（当時）に入社後、最初に赴任したダムです。

当時は、ダム建設の最盛期で、赴任直後に定礎式が行われ、それ以降、堤体の盛立量の区切毎に記念の宴が催されるなど、大変な活気でした。

私は、阿木川ダム建設所調査設計課に配属となり、毎日、上司の指示どおり青焼き、配筋図の作図、数量計算等を真面目に行い、また時々、5時以降はお酒を飲みながら上司や同僚に仕事やプライベートの相談をしたりしました。今思えば、大変な貴重な期間だったと思います。

32年振りに阿木川ダムに赴任しましたが、阿木川ダムは堤体のリップラップ、洪水吐きコンクリート、堤頂の高欄等、どれも重厚な色合いとなり、改めて年月の経過を感じます。折しも、昨年からダム総合点検（完成後30年毎にダムの健全度について総合的に調査及び評価）を実施中です。

昨今、豪雨が頻発しダムへの期待が高まっています。阿木川ダムと同じく、私もそれなりに年齢を重ねましたが、初心にかえり、ダムの効果を確実に発現させるとともに、多くの方々にそのことを分かり易く説明することに努めたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

○ ハナモモの花がきれいに咲きました

阿木川ダム湖畔の右岸管理用道路沿いにきれいなハナモモの花が咲いていました。3月下旬から4月上旬にかけては、たくさんの方がサクラを見に訪れる阿木川ダムですが、サクラに負けじと咲き誇るハナモモを前にみなさん写真撮影をなさっていました。ハナモモは中国原産のバラ科の樹木で、「気立ての良さ」、「あなたに夢中」等の花言葉があるそうです。



■ ハナモモの花



■ 管理用道路沿いのハナモモ

徳山ダム管理所

○ 洪水期に備えて洪水を貯めるための容量を確保します

徳山ダムでは、梅雨や台風に備えて洪水を貯める容量を確保するため、4月7日時点の貯水位（標高396m）から洪水貯留準備水位（標高391m）まで約5m低下させるための操作を行っています。

ダムの貯水位を徐々に低下させるため、4月13日から6月15日の間、ダム放流量を増やしますので、河川内に立ち入る際は、ご注意ください。

揖斐川の岡島地点及び万石地点の河川水位は、これまで（徳山ダムが管理を開始した平成20年から令和2年までの5月の平均流況）と比べて、5～10cm程度、上昇すると見込まれます。

約5mダムの貯水位を低下させ、洪水調節容量123百万立方メートルを確保します。

参考



4月7日現在の貯水位 標高約396m



洪水調節容量確保後の貯水位(イメージ)



- ・ 4月13日から6月15日までの間、揖斐川の岡島地点及び万石地点の河川水位は、これまで（徳山ダムが管理を開始した平成20年から令和2年までの5月の平均流況）と比べて、5cm～10cm程度、上昇することが見込まれます。
- ・ 河川内に立ち入る際は、ご注意ください。

長良川河口堰管理所

○ 新任あいさつ 長良川河口堰管理所長 新井 誠輔

4月に長良川河口堰管理所長に着任しました新井と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

長良川河口堰の管理業務につきましては、日頃より関係の皆様のご理解ご協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

長良川河口堰は平成7年4月に管理を開始して26年を経過したところです。

堰の管理としては、平常時には、塩水の遡上を防止して安定した取水を確保するためのゲート操作を行い、洪水時には、上流からの水を安全に流下させるためのゲート全開操作を実施し、またアユなどの魚類の遡上等に配慮したゲート操作、魚道施設の維持や、堰上流域の水質保全のための操作を着実に実施してきました。

近年では異常な豪雨等によって全国各地で被害が頻発しているところです。長良川河口堰では、これら異常気象に対しての備えに万全を期し、併せて環境に配慮した操作を継続し、引き続き適切な施設の管理・運用を実施して参ります。

今後とも皆様のご支援をよろしくお願ひいたします。



■下流左岸から平常時の長良川河口堰

○ 今年も稚アユの遡上状況を公表します！！

例年4月中旬からGWにかけて、長良川河口堰の魚道観察室では、稚アユたちの遡上の様子を観察することができますが、現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、魚道観察室を閉鎖しております（令和3年4月1日現在）。

感染拡大が終息し、魚道観察室を再開放する際はHP等でお知らせします。

稚アユたちが元気に遡上していく姿を、皆様にご覧いただくことを願わずにはられません。

お越しの際は満潮時の上げ潮が狙い目ですので、潮位表も参考にさせていただくと、ご覧いただける確率が上がります。

遡上の状況は長良川河口堰ホームページで公表するとともに、魚道のライブ映像の配信でもご覧いただけます。



■遡上するアユの様子

【詳しくはこちら】

遡上状況 : https://www.water.go.jp/chubu/nagara/15_sojou/index.html

ライブ映像 : https://www.water.go.jp/chubu/nagara/13_live/index.html

気象庁 HP 潮位表 : <https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/db/tide/suisan/suisan.php?stn=NG>

味噌川ダム管理所

○ 新任あいさつ 味噌川ダム管理所長 後藤 孝

本年4月に味噌川ダム管理所長として着任しました後藤と申します。どうぞよろしく願いいたします。

味噌川ダム管理所は平成8年(1996年)12月の管理開始以来、今年で25年目を迎えようとしており、この間の関係者の皆様の多大なるご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

近年、異常気象が続いており、毎年のように甚大な洪水被害が発生しています。こうした状況を踏まえ、味噌川ダムにおいても、洪水調節機能の強化に向けた取り組みとして、関係利水者の皆様のご理解を頂き、昨年度より事前放流を導入しています。また、低水管理においては、異常少雨などの不安定な気象状況のなかでも、これまでの管理経験を踏まえ、適切な維持管理・操作を行い、安定的な用水供給に努めてまいります。

さて、新型コロナウイルスとの闘いが長期化しており、味噌川ダム水源地域においても昨年度は地域活性化の取り組みの核である上下流交流イベントの殆どが中止を余儀なくされましたが、地域や関係機関の皆様と連携し、感染症対策に配慮しつつ実施可能な活動から取り組みを再開していきたいと考えていますので、引き続きご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○ 味噌川ダム防災資料館(ふれあい館)開館のお知らせ

12月から休館しておりました味噌川ダム防災資料館が4月10日に開館いたしました。各種イベントや展示会を開催いたします。ダム見学とともにお気軽にお立ち寄り下さい。

詳しくは「味噌川ダム防災資料館(木曾川源流ふれあい館)」のホームページをご覧ください。

ホームページアドレス :

<https://www.fureaikan.jp/>



■新緑の味噌川ダム

三重用水管理所

○ 新任あいさつ 三重用水管理所長 川地 悟

4月から三重用水管理所に来ました川地と申します。同じ中部管内の阿木川ダム管理所から来ました。これからよろしくお願い致します。

4月の着任早々、支線水路の漏水事故が発生しましたが、かんがい期前に修繕することができました。三重用水土地改良区みなさんに助けていただき大変感謝しております。三重用水では管理開始後28年が経過し、施設の老朽化が進んでいます。施設巡視を行い漏水等の早期発見に努めるとともに、定期的な施設機能診断調査を実施し機能保全に努めています。

新型コロナウイルス感染防止対策により、利水者のみなさまにこうした状況等を現地にてご説明をさせていただく機会が少なくなっていますが、予算説明などの機会に、適宜状況説明など情報共有を図っていきます。

一方、既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた取組みとして、三重用水管理所で管理しています5ダム(調整池)において事前放流する治水協定を締結しました。今年の洪水期には、治水協定と実施要領に従い、適切に実施していきます。

三重用水では、当管理所職員一同、安全で良質な水を安定してお届けできるよう今年度も管理業務を実施していきますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

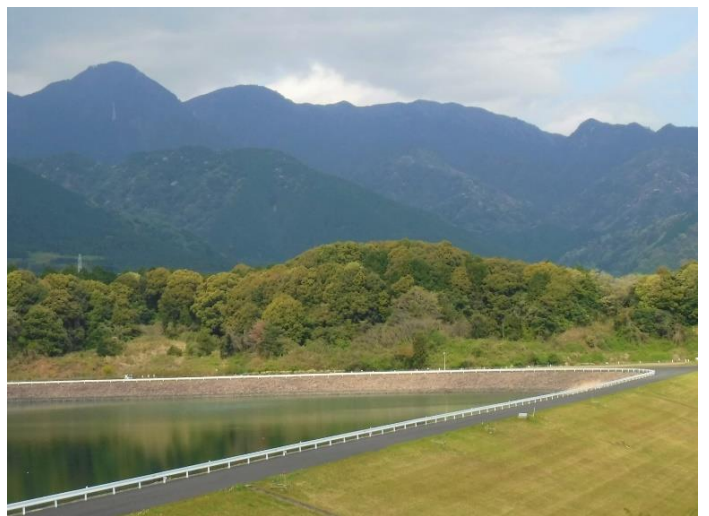
○ 菰野調整池周回散策路の舗装をリニューアルしました

昨年度末、菰野調整池内散策路の道路舗装についてリニューアル工事を実施しました。

工事期間中は散策路の利用を制限することとなり、散策やジョギング等で利用する皆様にはご不便をおかけしました。調整池施設の機能も向上するだけでなく、快適に散策等をお楽しみいただけることにも繋がっているものと考えています。

永く続いた寒い日々も過ぎ、水温む季節を迎えました。

十分なコロナ感染症対策をお願いすることにはなりますが、是非とも一度、鈴鹿山脈(雲母峰～御在所岳～釈迦ヶ岳～竜ヶ岳～藤原岳)の山並みや北勢地方の市街地を望みながらの散策等にいらしてください。気分もリフレッシュすること請け合いです！



■ 御在所岳とリニューアル散策路

編集後記

【中部支社担当課：総務部利水者サービス課】

*名古屋の桜が3月17日に開花し、平成元年、2年と並び観測開始以来の最速のタイ記録であったとのニュースも束の間、今は新緑やツツジの美しい季節となりました。中部支社管内においては、支社幹部を始め多くの職員の人事異動で令和3年度がスタートしましたが、引き続き事業の推進と適確な管理に努めて参りますので宜しくお願いいたします。

*今年度は、愛知用水が通水開始60年、阿木川ダムが管理開始30年の節目となります。あらためて水の貴重さ、用水やダム等の施設の目的や大切さなど多くの方々に認識してもらえればと思います。

*梅雨入り前のこの時期は、洪水期の開始（6月15日）に向け、ダムの貯水池に洪水調節容量としてのポケットを確保しておくために貯水位を下げていく操作を行います。所謂ドローダウンと言っています。洪水に備えた準備をして近年の気候変動による豪雨災害の防止にしっかり努めていきます。（徳山ダムの記事に記載）

*この時期といえば、長良川の鮎の稚鮎の遡上がシーズンになってきます。長良川河口堰の魚道観察窓は残念ながら新型コロナ感染症防止対策の一環により一般開放をしていませんが、HPで配信されています。私も鮎好き（釣りではなく食べる方）になったのは天然の長良川物に目覚めてからです。家庭のグリルでもヒレが焦げ落ちないように化粧塩を全てのヒレに付けてじっくり焼くと美味しく焼きあがります。

*中部支社のお隣の名古屋城では名古屋のシンボルといえる金鯱が地上に降臨しました。愛・地球博以来16年振り、病疫退散と復興への道に導くシンボルとしてとのことで、名古屋城内で展示後、栄に移動し4月10日～7月11日にイベント展が催されています。金鯱が無いお城の姿を見ると少し寂しげにも感じられますが、イベント展では触れることもできるとのこと、コロナ禍で落ち込みがちな気持ちを明るい話題で元気と希望をもたらしてくれることでしょう。



■ 地上におりた名古屋城の金鯱

